



減らそう！ごみ

～ごみの少ない生活の勧め～

来年7月から家庭ごみの有料化が始まることになり、注目を集めるごみ問題。今月は、西区内で行われているごみ減量の取り組みを紹介します。皆さんもごみを減らして環境に優しい生活を心掛けましょう！

写真解説：大量のごみの中から、プラスチック以外のごみを選別する作業員。中沼プラスチック選別センターにて

生ごみ減らして おいしい思い

私たちが日々排出する家庭ごみ。その約25%は生ごみといわれています。現在、市ではこの生ごみも「燃やせるごみ」として回収し、市民の税金を使って焼却処分しています。

今、この生ごみを堆肥としてよみがえらせ、野菜などの栽培に利用しようという取り組みが広がっています。ごみを捨てずにリサイクルすることで、食べ物を大切にしようという食育の観点からだけでなく、生ごみを減量する有効な手段としても注目を集めています。

学校給食フードリサイクル

山の手南小学校は教育委員会が平成十八年度から実施している「さっぼろ学校給食フードリサイクル」の重点校の一つ。

これは、学校給食を作るときに出る生ごみや給食の食べ残しを堆肥化し、市内の農家で活用、これにより栽培した作物を再び学校給食に利用するという事業で、食や環境を考え、物を大切にすることを育てることを目指しています。ごみの分別・資源化の促進という、市の施策のさらなる発展にも貢献します。重点校はほかの学校にとってモデル校のような存在で、山の手南小学校では、各学年で年一回のフードリサイクル専門の授業

※現在全市で七校の重点校のうち三校が西区にあります。
(山の手南小のほか八軒北小、発寒東小)

を行っているほか、総合的な学習の時間などで必要に応じてフードリサイクルを取り上げること、ごみ減量を含めた環境教育を精力的に行い、他校での実践に役立てています。

子どもたちの意識

四年生の総合的な学習の時間をのぞいてみると、子どもたちは、自分たちの学校給食からできた堆肥を触ったり、においをかいだり、興味深げに観察していました。「食べ物腐ったようなにおい」という感想もあれば「チョコレートのよくなにおい」というユニークな感想もあり、みんな活発に意見交換していました。

リサイクルは素晴らしいことですが、ごみは出さないうえに越したことはありません。ごみを減らすためにすべきことを「食べ残しはしない」「食べ切れない量は買わない」「好き嫌いをなくす」と、子どもたちはしっかりと理解しています。

放課後、五年生以上が参加する給食委員会が開催されていました。ここでは、子どもたちが自分の手で、給食から出る生ごみから実際に堆肥作りを行っています。この堆肥は、学校の畑でジャガイモや大豆、インゲン豆の栽培に活用され、夏以降、収穫の時期を迎えます。収穫された作物は、授業の中で子どもたち自身が調理して食べることで、リサイクルを実際に体験できる仕組みになっています。五年二組の給食委員佐々木夏美さん



▶フードリサイクルの授業で真剣に堆肥を観察する4年2組の子どもたち

◀6年2組の給食委員のみんな。「この堆肥で元気な作物がいっぱい育ってほしい」(写真左から鈴木さん、小河さん、おおやま、ほりかわ、大山君、堀川君)

